

令和7年度 第7回「白山市ミライ会議」会議概要

※会話の順番を入れ替えたりまとめたりしています。
※制度などの説明は、会議開催時点のものです。

日 時:令和7年6月29日(日) 10:00～

場 所:吉野谷コミュニティセンター

参加者:6 名



- ◆ 吉野谷コミュニティの目標は「地域で生きがいを持ち、安心して生活する人をふやす」です
- ◆ やりがいの種を蒔き、人と人とのつながりのきっかけを創っていきながら、活動を楽しむ姿を特に子どもたちにアピールしていきます

(吉野谷コミュニティ会長兼センター長)

吉野谷コミュニティの活動について、スライド(資料)を使って説明します。

吉野谷コミュニティの最終的な目標は「地域で生きがいを持ち、安心して生活する人をふやす」ということです。住んでよかったと思える、より元気な地区になればいいなと思っています。

運営については、「やりがいの種」を蒔き「人と人とのつながり」を創るということを、活動の主軸にしています。繋がりをつくるのは難しいのですが、きっかけづくりはできると考えています。

また、吉野谷独自の考えとして、「年寄りが多いけれども結構元気だよと思ってもらえる地域」というのが大事なと思っています。高齢者が多いからだめだという考え方が何となくあるような気がしますが、そうではなく、年を取っても、みんな元気でいろんなことを活発にやっている地区だということを示すのが大事じゃないかというふうに考えています。

これらを踏まえて、組織の委員の皆さんに意識改革をお願いしました。今までは公民館の企画のお手伝いをするのが各委員さんの仕事というイメージがあったのですが、これからは各委員が主催して考えて、企画運営していく意識をもってほしい、誰かがやってくれるという考え方から脱却してくださいというふうをお願いしています。

また、やりがいを持って活動する姿を地区の人たち、特に子どもたちにアピールしてほしいと願っています。自分が子どものとき大人がすごく楽しく地区の活動をしていた、自分もやりたいと

いう話が出るような、そんな地区になればということを思っています。

自分たちの活動であるべき地区を作る1つのきっかけになればいいなということと、それ自体を自分自身の楽しみにできるような空気が委員の皆さんの中に生まれるといいなと感じています。

運営に関しては、地域コミュニティ組織の役割は、運動会、文化祭、福祉防災関係などの事業について主体的に動いていくことで、大まかなイメージとしては人と人との繋がりを作るというのをメインにしてもらえないかと考えています。

一方で、コミュニティ組織事務局、コミュニティセンターは、文書関係や予算管理のほか、生涯学習の主体部局として、人々のやりがいや、やってみたいと思えるきっかけづくりをすることをメインの役割としていきます。長期的に考え、徐々に切り換えていけたらと考えています。

◆ 運動会や文化祭など継続的なイベントのほか、地域防災の取り組み、「子ども会議」で子どものアイデアを実現していく取り組みをしています

◆ 目指す事業のキーワードは「はたらく(傍楽)」「わがたの(我楽)」「やりがい」で、地域貢献や地域づくりが住民の楽しみとなりやりがいとなることを目指します

「人と人とのつながり」のための事業としては、継続的に開催している、生涯学習部会の文化チームと大門園さんが共同で開催している文化祭や、運動会などがあります。

地域防災の取り組みもしており、福祉防災部会と、地区在住の防災士でチームを作りました。6月に地区防災を考える会を設立して、推進する予定で動いています。この取り組みについては市民提案型まちづくり支援事業に「地域でつくる防災への提言「まずこれ！」」として吉野谷コミュニティとして採択していただきました。住民が自分たちで防災計画を作り、公民館時代から頑張っていた活動もバージョンアップしつつ、継承していき、コミュニティ同士の活動も増えているという形で、プランを立てています。

目指す事業としてのキーワードは「はたらく」「わがたの」「やりがい」の3つあります。傍を楽にする、世の中のための地域貢献ボランティアのイメージに、自分が楽しいという我が楽しいを加え、やりがいを持てる取り組みを作っていきたいということです。

モデルプランの1つ目として、「子ども会議」を実施しています。子どもが主体になって考えて運営する取り組みで、学校とも連携を取り、先生方が使っている会議室を借りて子どもたちが会議をし、アイデアを実現していきます。

例えば、プロ野球選手に学びたいということで、石川ミリオンスターズの選手に子どもたちが直接お願いをして、一緒に野球の練習をしたり、消防施設の見学に行ったりしました。こうした取り組みを踏まえて、今年は団体の楽しみだけでなく、地区の文化祭とか運動会にも子どもたちのアイデアを入れられないかっていうことを計画しています。

白嶺小中学校で、白嶺祭という、子どもたちの発表会をやっているんですが、今年度の白嶺祭は白山ろくジュニア文化祭バージョン白嶺小中という名前で、校下に広げていく予定です。

実際、コミュニティの会議で「子ども会議で子どもたちに意見を募りたい」という話題も出ました。子どもたちがそれを聞いて、大人達から頼られているとまんざらでもない顔をしていました。他の会議でも子ども会議でもこんな意見が出ていましたよっていうことを挙げてもらってそれを地区の運動会の種目の中に取り込んでもらったりもしています。

モデルプランの2つ目としては、地区有志が主体のイベントです。吉野谷は地区全体の祭りが特にないので、吉野谷でも作っていきたいと考え、実行委員会で企画、実施をしています。

3つ目は、保管されている昔のビデオテープなどの映像データを復活させて、交流会を開くという事業です。吉野谷文化協会が主体となり、市民提案型まちづくり支援事業にも採択されました。住民が主役となって、運営ができる地区になればいいなと思っています。

◆ 地域コミュニティ組織は予算や権限、職員が十分ではないものの、自由度が高く、身軽に活動できて、多くの地区の皆さんが動いてくださるのがいいところです

◆ 市には活動を楽しむ姿を見守り、必要に応じてサポートをしてほしいです

地域コミュニティ組織は、予算や権限が少なく、センター長が半日勤務なので常駐が2.5人で、できることは多くありません。しかしその分自由度が高く、身軽に活動ができる団体かなと思います。また、地区の繋がりがとても強く、お声掛けすると相当の人数がこのコミュニティのために動いてくださっています。それによっていろんなアイデアが出てくると思うので、それを生かせば、可能性が大きく広がると思います。

まとめると、短期では、活動を楽しむ姿がとても大事です。これは活動に参加して楽しむということと、活動を作り上げて楽しむという二面があります。高い自由度を生かして目標に向かう過程や、より近づくための試行錯誤の楽しみ、その姿が出てくるが必要だと考えています。

長期的には今撒いているやりがいの種がやがて芽を出すだろうと期待しています。自分自身が地区でこの仕事をしているのは、小学生中学生の時に地元で撒かれた種が、今ようやく芽を出したのだと思います。芽を出すまでに50年かかったので、今自分たちが蒔いた種が、次の50年に繋がっていき、やがては地区が少しずつ変わってくのではないかと考えています。働く場とやりがいは刺激し、試行錯誤の中で気持ちに余裕があるコミュニティを作っていきたいです。慌てて焦りながら運営をしても、多分続かないと思います。うまくいなくても次はこうしようと言い合える組織だったら、長続きして活動がさらにもっと良くなり、新しいアイデアも出てくるのではないかと考えています。

そのために、市には、地区の人々が活動を楽しむ姿を見守ってほしい。それから、活動がスムーズに進められるように今後も必要に応じたサポートをお願いしたい。前向きなお願いをしたいと思うので、その時には「はい」と返事をしてもらえたらと思います。

以上が、吉野谷コミュニティの活動についての紹介です。

(市長)

子どもたちに大人が楽しむ姿を見せるというのはとても良いと思います。昨年各地区のお祭りを視察しましたが、やはり祭りは子どもが楽しそうですね。コロナがあってそういったものがしばらくなかった中で、子どもたちが活発にしているのはうれしいです。

20歳の子たちの意見を聞いた機会がありましたが、今は白山市から出ているけど、いずれ白山市に戻って白山市のために働きたいと言っていました。本当にそうなるかどうかは別として、そういう気持ちを持ってくれているということが、大変うれしく思いました。

その価値観を作っていくのは基本的にコミュニティだと思います。様々な取り組みをやっているのはとてもありがたいですし、これから、組織で必要だと言っていることに対応できる体制を作っていかなければと思います。ご苦労話を聞きながら、こちらも頑張っていかなければと思います。

◆ 特に高校生の通学について課題を感じていますが、それに限らず、白山ろくに若者が定住しやすい環境づくりをしていただきたいです

(参加者)

吉野谷地区はかなり高齢化が進み、世帯も少なくなってきました。現実問題として、次の世代がいないと、高齢の世帯だけで元気を出してやろうと言ってもなかなかできないと感じています。

先日、金沢工業大学の学生と話す機会がありましたが、吉野谷に住んでみたいという子も何人いました。田舎暮らしに憧れる若い人も結構いるということです。

若い人がここで住むときに憧れはあっても実際に住むことにどんな問題があるのかというと、例えば買い物の問題は、さほどありません。例えば木滑は、一番近い A コープは 10 分で行けますし、小松市、野々市市、鶴来も 30 分圏内です。また、将来子どもができて、小中学校はどうだろうと考えると、白山ろくはスクールバスも活用していますし独自の教育もできているので大丈夫だと思います。

問題は、その後の、高校生の通学の負担が大きいことだと思っています。白山市で、通学への資金援助などのサポートがあれば、この田舎に住む条件をクリアできるのではないのでしょうか。

若い人たちが住むことによって、地区が活発になってくると思います。若い人と話をして、どこに住みづらい点があるのかということを見極めて、市政にお願いできることがあったら、そこに注力してご尽力いただければと思っています。

(市長)

白山ろくに限らず市内のどこも高齢化率は高くなっているのが現状です。両輪として、まずは高齢であっても元気であるということは大事ですね。白山市では、高齢者も健康寿命を延ばそうと「あたまと体の健康増進事業」というのを進めています。

また、白峰地区では「しらみね大学村」といって大学生が入れ代わり立ち代わり来て、地区で様々な手伝いや除雪などの活動をし、関係人口を増やすという考え方をしたり、空き家をリノベーションして宿泊施設にして街並みを守る事業をしたりしています。

先ほど下吉野の防災訓練に行ってきましたが、空き家バンクに登録したら金沢から若いご夫婦が来られたとの話を聞きましたし、魅力を感じていただけているようですね。

通学に関しては、鶴来高校はバスで通えば通える範囲かなと考えていますがいかがですか。

(参加者)

鶴来高校は通えますが、白山ろくの子どもたちの選択肢が広がるよう、別の学校への進学も含め自由な選択ができるように、援助していただけたらと思います。

(市長)

白山ろくにお住まいの子どもが金沢市内などの高校へ行ったときに対する援助ができないかということですね。

確かに、鳥越の三坂を抜けて小松市の学校へ行っている子もいます。今そこもトンネルを作ろうと検討していますし、バスの便についても、議会でも質問をいただいています。

通学に関する補助は様々ありますが、それでもなかなか難しいですか。

(参加者)

補助があっても、距離が長く、今はバス代が非常に高いのもあって大変です。補助率は大事だと思います。

通学補助に限らず、若い人が住みやすい白山ろくをつくる中で何が課題になるか、行政に何ができるかということを早急に考えて、環境づくりをしてほしいと考えています。今後空き家がたくさん出てきますし、その活用をする中で、若い世代の人たちを取り入れるような、新しい政策を積極的にやってほしいです。

(シティプロモーション推進課長)

現在、白山ろくの高校生の通学補助は、路線バスを利用する場合は鶴来駅または小松駅までの定期代の1/2、アパート等の家賃は年間7万円の上限の中で1/2、自家用車での送迎は距離によっての補助、というものになっています。

(市長)

最近、二拠点居住という考え方が出ています。土日は白山ろくの家でお店を開き、月から金は、金沢で生活をするというような方もいて、地域の活性化という意味では、この考え方もしていかなければならないと思っています。

補助については十分ではないかもしれませんが、続けていかなければならないと思いますし、それ以外にも、どういう取り組みができるか、いろいろ参考にして考えさせていただきます。

◆ 吉野保育所の活用と出産後の3歳未満のきょうだいの保育について

(参加者)

本年度吉野保育所は、園児数が少なくて、休園になりました。地区の子どもでも、鶴来や園児数の多い保育所へ行く人もいますし、他地区から来ていた子どもも、結局鳥越まで送ったりしているようです。地元の保育所で育てられる方法はないでしょうか。

敬老会では、例年なら園児のアトラクションがあって楽しみにされている方もいらっしゃるのですが、地区でそういうものがない状態です。

(参加者)

建物にはいい設備が残っています。それをまた活用できるように考えて欲しいと思います。隣には児童館もあって頑張っているようですが、来るときは誰かに送ってもらうことになります。そのような問題があるので、学校から児童館へ動くような方法を考えてもらえば活用率が上がると思います。白嶺小中の子が、バスで来ている例もあるようなので、子どもたちが楽しむことができる場所へ行けるような環境を作って欲しいです。

(市長)

吉野保育所を希望される方が少なくて、結局鳥越に行ったりしていると聞いています。吉野保育

所は空いていましたので、希望されれば入れるはずです。

（参加者）

市立保育所の入所についてです。子どもを産んだ後、上の子を保育所に預けたいとなると、産後2週間は大丈夫ですが、あとは家にお母さんがいるので不可と聞いています。上の子がまだ2歳で保育所には預けられない年齢だと、結局産んだばかりの子どもと二人の育児をしなければなりません。

法人になっている保育所では、子育てのために3歳未満の子も預かってくれるようですが、市立の保育所はお母さんが家にいたら預かってくれないというので、別の保育所に相談するというお話はよく聞いています。

（シティプロモーション推進課長）

今のご意見については、法人か公立かということではなく、保育所・保育園か、または幼稚園か、現在の制度で言うと認定こども園かの違いからのものかと推察します。

「保育所」の入所の要件は家族の方が仕事などにより家庭で保育できないということが基準になっています。「幼稚園」は、仕事などの理由がなくても入園できます。また、「認定こども園」は保育所と幼稚園どちらかの基準に当てはまれば入園できます。

産後、育休中についての「保育所」での現在の決まりでは、3歳未満の子どもの産後のお預かりについては、産後は8週間までお預かりできます。また、育休中は家庭で保育が可能と考えられているため、原則お預かりすることができません。ただし、申立書等により、内容を協議したうえで、必要となる場合は、お預かりすることができます。

出産前から保育所に通われていて、産後も同じ保育所に通いたいというご希望はあるかと思いますが、基準に沿っての入所となっていますのでご理解ください。また、法人と公立との入所の基準に差はありません。

（市長）

白山ろくでは、白山市立は全て保育所なので、公立は退所しなければならないと感じたかもしれませんが、まずはご相談いただきたいと思いますので、どうぞご理解いただければと思います。

◆ 交付金や補助金の仕組みが複雑だと、住民が運営しにくくなると思います

（参加者）

お願いになりますが、地域コミュニティ組織である吉野谷コミュニティとコミュニティセンターと一緒にやっていけるような団体を目指していますが、交付金の仕組みが複雑化して、すごく手間がかかるようになってきています。複雑化すればするほど住民が入ってやりにくくなってしまいます。もう少し、やりやすい方法がないかなと思います。

◆ 交流人口の増加に向けた開発に期待しています

(参加者)

先ほど市長が言われた、二拠点居住や、関係人口、交流人口についてですが、吉野谷では交流人口を増やすことが選択肢となるのではないかと考えています。

二拠点居住は、時代の流れもあって白山ろく全体では増えてきています。関係人口の増加は、吉野谷は白峰とは違い、集落同士がちよっと離れているので難しいのではないかと考えています。

そこで、交流人口を増やすことが選択肢の一つだと思います。現在、吉野工芸の里でジオパークを中心にして再整備が進められていますので、たくさんの人に来ていただきたいです。加えて、飲食ができる場所を増やして滞在時間を長くするといった取り組みが必要だと思います、そうすればそこに仕事ができ、仕事をする人が集まってくるのではないのでしょうか。どのような整備になるのか分からないのですが、そのような開発を期待しています。

若い人が今なぜ外へ出て行くかという仕事をする場所が遠いのも一つの要因だと思います。鶴来、松任、野々市で仕事をしていて、たとえばお酒を飲んで帰ろうとすると、もう交通網が一切ない。代行も、タクシーも少ない時代に入ってきているので、夜の移動は減っていきます。帰ってきて、夕方 5、6 時になるとお医者さんも全部閉まっています。どうしても町の方に住んで仕事をしたほうがよいという考えになります。

また、平野部の市民の皆さんは、白山ろくの生活の大変さなどをあまり感じていらっしゃらないような気がします。できれば白山ろくの生活をもうちょっと知って欲しい、来てほしいということを期待しています。ジオパークのスポットなどは見ていただいているのかなとは思いますが、よその地域でしようみたいな感じがします。職員の方々は動いてくれています、一般市民に向けて、さらに伝えていただけるとありがたいと思います。

(市長)

例えば今年の雪についてですね。今回白山ろくは降り続いたので除雪も大変だったでしょうし、屋根雪を下ろす回数も増えたと思います。実際には生活してみないとわからないかもしれませんが、除雪も当然市としてやるべきものですから、そこは平野部の方にもご理解いただき、これからもしっかりと伝えていきたいと思っています。

交流人口については、道路などの整備も重要だと考えています。小松方面の三坂トンネルの整備も進める方向で、台湾などから外国人観光客が飛行機で小松空港に着き、それからバスで白山ろくにも入ってくるのではと考えています。また、360 号線がそのまま白川郷に突き抜けると、もっとよいと思いますので、何回か国土交通省にも要望に行っています。

さらに、吉野谷から白川に向かっていく道の整備は、かなりの長大トンネルになりますが、これは長年の夢として、昨年も何回か要望に行かせていただいています。

様々な課題がありますが、交流人口を増やすというのは必要だと思います。

◆ めぐーるの増便をお願いします

(参加者)

バスの本数が減りましたが、大型のバスはもういらないと思います。コミュニティバスのような小型のものが、2 時間に 1 本でも通っていただければ、それだけで白山ろくの行き来ができますので、観光地としても、高齢者が買い物に行くにしてもいいのではないのでしょうか。

今は朝 7 時のバスと 9 時のバスが行ったら、鶴来方面に向かう手段は夕方 3 時までありません。コミュニティバスは他にも数本出ていると思いますが少なく感じます。高校生の通学には、朝 7 時のバスのみで、鶴来高校に 20 分で着いて、8 時半の始業までの時間が長く、結局親が送ることになっています。

(市長)

路線バスに関しては、運転手不足が問題となっています。本数は、利用者が少ないので 10 年前に比べると少し減っていますが、鶴来駅まではバスを出して、鶴来駅から石川線に乗って通うというような形となっています。当然費用負担は大きいと思うので、その補助についても先ほどお話しした通り、考えていきたいと思っています。

ライドシェアという考え方もできますが、これは登録をした一般の方がご自分の車を使って有償で送迎をするもので、利用者が予約をする形になります。最近公共交通がないところではこの仕組みがありますが、まだまだ運転してくれる方が少ないようです。また考えさせていただきたいと思っています。

(参加者)

路線バスより、市のコミュニティバスをたくさん動かして欲しいです。鶴来の街中は 2 時間おきぐらいにコミュニティバスが走っているのを見ますのでぜひお願いします。

◆ 文化を繋いでいくことと、SNS などでの発信力の強化をしていきたいです

(参加者)

文化関係の活動を長くしています。白山ろくはかなり高齢化が進んでいますが、大事なのは文化を繋いでいくことだと思います。大分人数が減った、あれできないこれできないという意見はありますが、やりたいという方がいらっしゃれば、やはりバックアップしたいなとみんな考えています。文化を継承していくことが、今後インバウンドや、交流人口を増やすためのいろいろな方向に結びつくと思います。

そういう意味では、吉野工芸の里の事業に関しては感謝しています。長年吉野谷村のときからずっと繋いできて、作家の方も頑張っています。特に白山の歴史、文化が今後観光にも繋がるアピールになり、関係人口、交流人口も増えていけば、企業さんからなにかを作りたいというアイデアもでてくるかもしれません。

例えば吉野のオートキャンプ場は非常に人気があって、大手のメーカーさんも注目しているようです。アウトドア、自然に繋がるアイデアを我々も発信したいのですが、素人なので難しい部分もあります。企業さんのそういう情報をもらって、どのように前向きに進めればいいのかなどを煮詰めることも今後必要かなと思っています。

(市長)

瀬波のキャンプ場は株式会社にして営業しており、さらに広げていきたい意向と聞いています。春先に見てきましたが、固定客もいらっしゃいますし、たくさんの登山客にも利用されているようです。吉野工芸の里をジオパークを絡めて再整備する計画もあり、吉野谷の交流人口の増加についてはいろいろ考えています。民間企業にはそれぞれの思惑や考え方がありますので、そういった部

分のすり合わせも進めていきたいと思います。

（参加者）

これからは告知をきっちりとやっていかなきゃいけないかなと思います。今は SNS などを利用して皆さん発信しており、外国の方もたくさん使っています。自然が豊かで広報分野はハイテクだというような、そんな形もやはり白山ろくは必要かなと感じています。

（市長）

インスタグラムはあちこちで活用されているようですね。最近美川地区にインバウンドの方が多いのですが、それも来られた方が、SNS で広めてくれています。美川商工会がいろいろ仕掛けをしていて、年間で 1 万人が利用しているという話も聞きますし、周辺の飲食店にも外国人のお客さんが入っています。吉野谷は吉野谷のよさを PR していただきたいですし、市の方でも、まずは、吉野工芸の里をとにかくいいものにしたいと思っています。

（市長）

いろいろなご要望やお話をお聞きして、様々な発想を実現していけるような、行政側の取り組みが必要だというのは思っております。会長は吉野谷地区の主役としての意識ということをおっしゃってましたし、白嶺祭の話題もありましたね。今後も地区の活動を集約して盛り上げるような取り組みをいろいろとしていただければと思います。そして、最初に言われたように、こういうことがしたいので、こういうことをお願いしたいと、また要望を挙げていただければと思います。

白山ろくのミライ会議で必ず出ている、高校生の通学の話についてもどうしていくのか、お話ししたように少し補助は出させていただいておりますけれど、それが本当に効果的なのか考えていきます。その他様々お話をいただいたので、いろいろ参考にさせていただいて、また頑張っていきたいと思います。本日はありがとうございました。